



# 白聖はくあ 第6号 令和4年11月4日発行



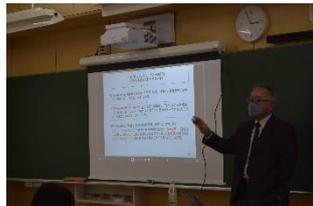
## 【進路行事について】

### 《2学年 大学ドリーム講座 10月27日(木)》

大学の模擬講義を受講することで、「学問」が人間・社会とどう関わり、いま直面する課題をどう解決し、どのような世界を築いていくかということについて考えを深め、自らの進学志望の具体化に役立てる。

【自己実現力】【課題発見力】【受信力・発信力】

### 《講座の様子》



### 《講座の感想》

●感想 普段何の疑問も持たずに使うような定説を覆すなんて可能なのだろうかと思いついたが、講義を聞いていくうちに、実は辞典に衝撃的な間違いがあったという事実や、真実を見つけるための方法などが分かっていき、大学での研究のレベルの高さを実感した。私は文学部を志望しているが、今回の講義を受けて今まで以上に文学部への興味が深まり、文学部で研究をしてみたいという思いが強くなった。

●感想 講義を聞いて、「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外の何ものでもない」という言葉が心に決まりました。新しいものを生み出すのではなく、ある物の組み合わせを考えて「違い」をつくるという考え方が自分にはなかったのだと驚きました。また、SNSが普及した今の時代だからこそ観光産業のあり方だと思います。「違い」がなければ、たくさんある情報の中に埋もれてしまいます。青森の魅力をより出すためにどうすればいいかを考える良い機会になりました。貴重な話が聞けて、有意義な時間になりました。

●感想 初めてオンライン以外での講座に参加することができ、貴重な機会と知り嬉しかった。聴診の實習では、聴診器の使い方だけでなく、適切な流れで進める必要がありました。当座場所が命を助けたので音がよく聴こえませんでした。患者さんへの声かけを考えたことも難しかったです。また、清潔に診察を行うために、自分の身だしなみも整えなければならぬと思いました。

●感想 工学部という、バリバリ理系の物づくりとかのイメージが強く強かったけど、人文社会とか幅広い分野とも関連付けて学べるのとわかった。また、どんな分野でも最終的には社会の抱えている問題を解決するために、もしくは新たな問題を見つけるために学べるのと改めて分かった。今の化学はどんどん進化している、そして昔はできなかったことがたくさんできるようになってきていると思うし、私もそういうことを学んで社会に少しでも貢献したいなと思う。

### 《講座一覧》

大学名	講師氏名	講義タイトル
東北大学 文学部	高橋 章則 教授	歌川広重「魚尽（うおづくし）」シリーズの成り立ち -異分野資料を用いて定説を覆す-
弘前大学 人文社会科学部	森 樹男 教授	観光DXと地域活性化～KKD（経験・勘・度胸）からDMO（観光地域づくり法人）へ～
東北大学 法学部	鹿子生浩輝 教授	法と政治を原理的に考えよう
宮城教育大学 教育学部	市瀬 智紀 教授	SDGsの地球的課題を解決するための変容的行動（Transformative Action）とは何か
東北大学 理学部	服部 誠 准教授	宇宙最古の光の偏光観測で宇宙創成期を探る
東北大学 工学部	松本 祐司 教授	真空技術と化学の融合 - 電子部品の中の薄膜という材料とは？ -
岩手大学 農学部	斎藤 靖史 准教授	ゲノムと遺伝子、DNA
はこだて未来大学 システム情報科学部	藤野 雄一 教授	メディカルICT
弘前大学 医学部	鬼島 宏 教授	患者さんへの配慮を忘れずに聴診を行う

## 【探究活動と進路の関連性】

総合型選抜では、探究の観点で受験生を評価し、円滑に高大接続を図ろうとする大学が増えています。大学は研究をする機関であり、高校時代の探究が大学での研究に繋がると考えられているからです。

### 《総合的な探究の時間の目標とは》

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指しています。

### 《探究過程の高度化と自律性》

質の高い探究をするためには、高度化し自律的に行われることが必要とされています。

「高度化」には以下の4つの特性があります。

- ①探究において目的と解決の方法に矛盾がない**整合性**
- ②探究において適切に資質・能力を活用している**効果性**
- ③焦点化し深く掘り下げて探究している**鋭角性**
- ④幅広い可能性を視野に入れながら探究している**広角性**

「自律性」は以下の3つが考えられます。

- ①自分にとって関わりが深い課題になる**自己課題**
- ②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる**運用**
- ③得た知見を生かして社会に参画しようとする**社会参画**

## 《他教科の探究との違いとは》

総合的な探究の時間で行われる探究は、基本的に以下の3つの点において他教科・科目において行われる探究と異なっています。

1つ目は、学習の対象や領域が特定の教科・科目等に留まらず、**横断的・総合的な点**であるということです。実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象としているからです。

2つ目は、複数の教科・科目等における見方・考え方を**総合的・統合的に働かせて探究する**という点です。他の探究が、その教科・科目における理解をより深めることを目的に行われていることに対し、総合的な探究の時間では、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を**俯瞰し、様々な角度から捉え、考えていく**ことが必要になります。

3つ目は、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、**最適解や納得解を見いだすことを重視**しているという点です。

## 《各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせよう》

実社会・実生活の中の課題の探究において、**言葉による見方・考え方を働かせること**（対象と言葉・言葉と言葉との関係を、言葉の意味・働き・使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること）や、**数学的な見方・考え方を働かせること**（事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着眼して捉え、論理的・統合的・発展的に考えること）や、**理科の見方・考え方を働かせること**（自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること）など、各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を、課題に応じて適宜組み合わせながら、繰り返し活用されることが求められます。

探究の課題は、**各教科・科目等で学んだ見方・考え方を総合的・統合的に活用しながら**様々な角度から捉え、考えることができるものであることが求められます。課題の具体的な例は、以下のような課題が考えられます。

- ①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ②地域や学校の特色に応じた課題
- ③生徒の興味・関心に基づく課題
- ④職業や自己の進路に関する課題

よりよい課題を発見し解決していくには一定の資質・能力が必要です。課題についての一定の知識や技能がなければ、課題の解決には向かいません。「知識無くして思考無し」です。**思考の土台となる知識・技能**を学校生活の中で身に付けていきましょう。その機会となるのが日々の授業になります。

## 《自己の在り方・生き方について考える》

自己の在り方・生き方とは、次の3つの角度から考えることができます。

1つ目は、人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えて、**社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきかなど**を考えることです。

2つ目は、**自分にとって学ぶことの意味や価値**を考えることです。学習活動を通して、自分の考えや意見を深めること、そして、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することが大切になります。

3つ目は上記の2点を生かしながら、学びを現在及び将来につなげて考えることです。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、人間としての在り方を基底に、**自分の人生や将来、職業について見通し、どのように在るべきかを定めていく**ことです。

## 《先行事例・大学研究を大切にしよう》

課題を設定したら、その課題に対して、世の中ではどのような人達が研究しているのかを調べてみましょう。**大学や大学院の教授・研究室・論文**など、インターネットを利用して調べてみましょう。論文を調べる際には、Google Scholar や CiNii (検索する際にスタート画面の「すべて」を「論文」に切り替えると良い)が便利です。

探究活動は、自己の在り方・生き方であるキャリア形成、その過程である進路選択にも繋がってきます。大学の志望理由にも繋がってくる場合があります。ぜひ自ら先行事例・研究を調べてみてください。